

# 経済マンスリー

## [原油]

### 原油市場を取り巻く環境（9月）

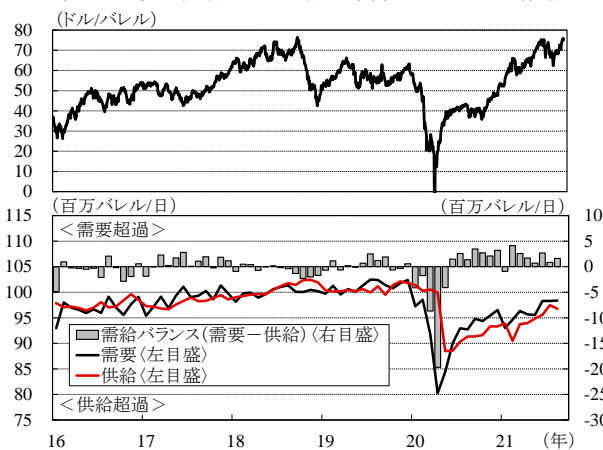
#### 1. 原油価格の推移

原油価格(WTI期近物1バレル当たり)は、9月上旬に軟調な米雇用指標を受けて60ドル台後半まで小幅に下落した後、米国でのハリケーンによる供給障害等を受け72ドルまで上昇した。その後は、中国不動産大手の経営危機に伴う株安等を受け一時70ドル弱まで下落したが、足元では警戒感がやや後退したことや米エネルギー情報局(EIA)の在庫統計で米原油在庫が約3年ぶりの水準まで低下したこと等を受け75ドル前後で推移している(第1図・上)。

#### 2. 需給の動向

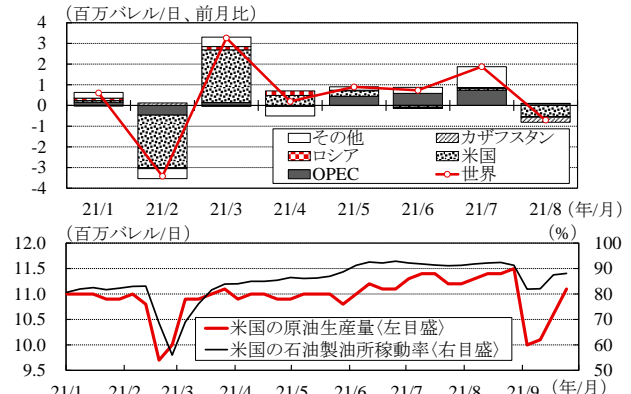
EIA月報によると、8月の世界の原油需要は9,838万バレル(日量)、供給は9,676万バレルとなった(第1図・下)。昨年6月以降、今年1月を除いて一貫して需要超過が続いており、8月のその幅は162万バレル、前月比では+79万バレル増のほぼ倍増となる。8月の需要超過幅が拡大したのは供給が前月から70万バレル減少したことによるが、その主因は、①8月末のハリケーン襲来に伴う米国における石油関連施設の操業停止、②OPECプラスのメンバーであるカザフスタン、ナイジェリアにおける石油関連施設のメンテナンス実施、操業問題発生等である(第2図・上)。足元の原油価格上振れは、これらの要因が9月になっても完全に収束していないことが影響しているとみられるが、米国の原油生産量は週次統計で既に底打ちしていることが確認できるほか(第2図・下)、カザフスタンの石油関連施設メンテナンスも9月上旬に終了したとみられるなど、供給面の制約は総じて解消に向かっていると見える。OPECプラスは毎月40万バレルの減産規模縮小(即ち増産)を実行中であり(但し上記要因から8月は未達)、またサウジアラビア等の主要産油国には増産余力が大きいこと等を勘案すれば、原油供給はこの先、一時的要因を解消しつつ緩やかな増加トレンドに回帰していくと見込まれ、原油価格の上値を重いものにする予想する。

第1図:原油価格及び世界の需給バランスの推移



(資料)EIA(米エネルギー情報局)、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図:世界の原油供給量(前月比)と米国の原油生産量、石油製油所稼働率(週次)の推移



(注)米国の原油生産量、石油製油所稼働率は9月24日までのデータ。  
(資料)EIA(米エネルギー情報局)より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 中山 健悟 kengo\_nakayama@mufg.jp  
鷹巣 里奈 rina\_takasu@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。